

京都・保津川の筏流し

かつて、保津川(桂川)には丹波山地で伐り出された材木を運ぶ筏流しが盛んにおこなわれていました。その歴史は古く、奈良時代にまでさかのぼるといわれています。

保津川の筏流しは、材木や商品の運搬によって京の都の人々の暮らしを支えた一方で、たとえば足利尊氏による天龍寺造営や豊臣秀吉による大坂城や伏見城築城など、その時代の大事業においても大きな貢献を果たし、時の権力者からも特別な地位を認められてきました。江戸時代末期には経済の発達にともなって輸送も飛躍的に増加し、最盛期には毎年60万本もの材木が京都・大坂に送られ、保津川流域は大きく栄えることとなります。

半世紀ぶりの筏復活をめざして

古代から近世にかけて大きく栄えた保津川の筏流しですが、明治・大正期の山陰本線の開通や国道の整備によるトラック輸送の普及とともに次第に衰退し、戦後しばらくして完全に途絶えてしまいます。現在、流域にご健在の元筏士の方々も数名となり、貴重な伝統技術とともに、筏の記憶も、今まさに途絶えようとしています。そこで2007年8月に日吉ダム(南丹市日吉町)で行われた天若湖アートプロジェクト2007では、元筏士の方々の指導のもと、伝統的な技法による筏の復元を行いました。2008年には約60年ぶりに保津大橋(亀岡市保津町)から、かつて筏の中継地であった山本浜(同篠町)まで、筏流しを復活させることに成功し、2009年には保津峡・落合から嵐山までの筏流しが実現しました。

今回は、筏の試乗会を行います。今まで見ることしかできなかった保津川筏にじかに触れてみてください。この貴重な歴史遺産を多くの方々々が体験し、かつての流域を結ぶ川の営みを実感していただくことで、「筏がつなぐ歴史の記憶」を甦らせたいと考えています。



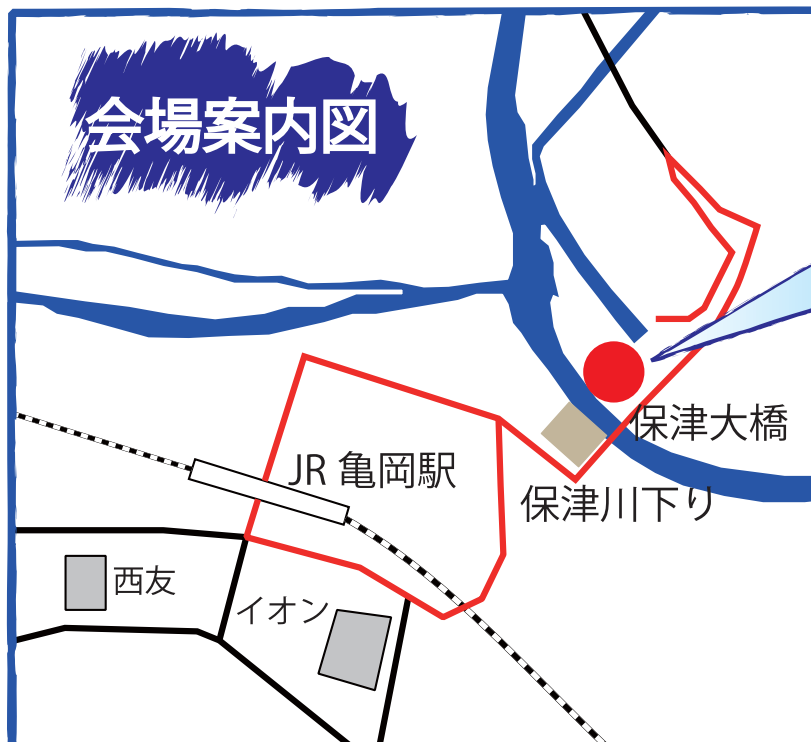
歴史教室の様子 2008年9月10日



保津峡を下る筏 2009年9月9日



保津小橋を下る筏 2010年10月23日



【当日の試乗会予想図】

いにしへの保津川に タイムトリップ!!

※濡れますので、濡れても支障のない格好でお越しください。
※暑さ対策は各自でお願いいたします。